

小さな子どもたちは田んぼや畑が大好き

「家では見ることのできない子どもたちの姿が何よりうれしいです！」

0歳からの未就園児とその親を対象とした農業体験を提供する、藤枝市のどろんこ子育て応援団。農業体験や自然体験の経験が少ない世代の若い親子たちがお米や野菜を育てる場合は、他の親子や地域の人びとと関わり、食に関する理解を深め、食を大切にする心を育み、みんなで子育てをする大切な場。活動のたびに見られる子どもたちの笑顔を通じて、参加者たちはもちろんスタッフたちも、気づくことがいっぱいだ。

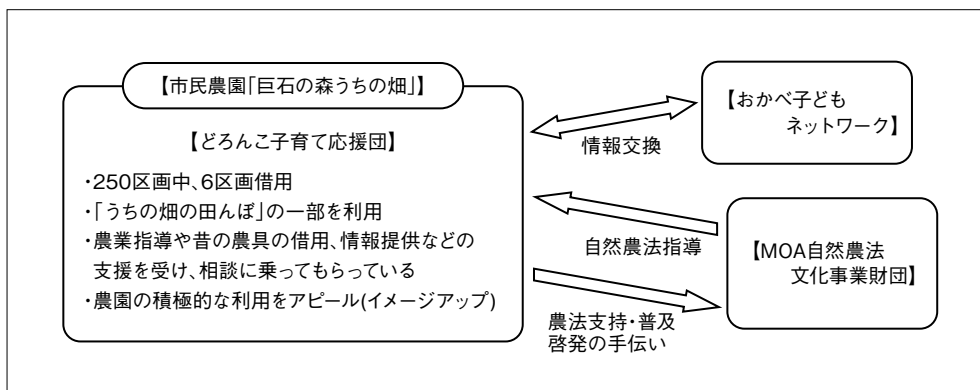
どろんこ子育て応援団

取組主体

- 名称：どろんこ子育て応援団
- 担当窓口
担当課(者)：代表 伏見佐和
住所：静岡県藤枝市岡部町782-4（自宅）
電話：090-5108-0310 FAX：054-667-2387
E-mail：fuu753@e-mail.jp
- 団体等の属性：その他(任意団体)
- 構成員数：10名
コーディネーター等：なし
- 活動内容を紹介するHPアドレス：
<http://dolonko.eshizuoka.jp>（ブログ）
<http://kazekkoclub.web.fc2.com/index.html>
- 連携団体及び協力団体
属性：農林漁業に関する団体
内訳：おかべ子どもネットワーク、企業組合市民農園「巨石の森うちの畑」管理組合、MOA自然農法文化事業財団



活動風景



取組地域及び地域の特徴

取組地域：静岡県藤枝市岡部町

地域の特徴：

藤枝市岡部町は旧東海道の宿場町として栄えた町で、町の中心を流れる朝比奈川の上流にかけての自然豊かな山あいの地域、玉露の産地としても有名である。旧岡部町は平成21年1月に藤枝市と合併したが、合併前の人口は約1万2000人（藤枝市の人口は現在約14万人）。隣接する県庁所在地の静岡市中心部から、車で30分ほどの距離にあることから、住宅団地が多く造成され、静岡市のベッドタウン化が進行した。年少人口の減少、高齢人口の増加によって少子高齢化が進行しているものの、世帯数は増加傾向を示しており、

今後とも家族の小規模化が進んでいく傾向にある。

農業の現状としては、農業粗生産額の落ち込み、農家戸数の減少や後継者不足など厳しさを増してきている。

取組内容

(1)目的(目標)

0歳からの親子が他の親子や地域の人びとと関わりながら命あるものを育てて食べる体験、五感をフル回転させての活動を通して、土・生き物・畑・農業など私たちを取り巻く環境と私たちとのつながりや命の大切さを体験・体感する場、子育て中の親たちのコミュニケーションの場と心を開放できる場、愛郷心を育む場の提供を目指している。

(2)取組開始時期・経緯

地元生まれの代表が、自然豊かな地域に住んでいながら自然と関わることの少ない人が多いことに気づき、10年程前から環境教育として農作業体験などを提供してきた。中でも4年前から実施している未就園児親子対象の食育・農作業体験については、環境について考えられるだけでなく、自然を活かす農業の良さや楽しさに気づく、農業の現状や文化に関心を持つ、食育や本物体験、子育てを始めとする情報交換、子育て中の悩み多き親の心を開放し子育ての意義や楽しさを実感、子どものさらなる可能性に気づくといったさまざまな可能性を見出した。

そこで、平成22年4月から新たに、より良い社会づくりの手助けをすることで自らも成長し合いたいとの想いのメンバーで「どろんこ子育て応援団」を発足。0歳からの食農体験教室「うちっちの畑」をスタートさせた。

団地では他に、乳幼児からの親子自然体験「風っ子クラブ」やリーダー養成講座、里山保全なども行なう。

(3)対象作物

米、野菜

作物名・種類:もち米、サツマイモ、ゴーヤ、ねぎ、大葉、ナス、キュウリ、ブロッコリー、大根、ジャガイモなど、季節の野菜

選定理由:季節に合ったもの、育てやすさ、食材としての活用のしやすさ

(4)具体的な取組内容

藤枝市岡部町子持坂の市民農園「巨石の森うちの畑」に設営した「うちっちの畑農園」及び水田で、もち米、季節の野菜を農薬や化学肥料を使わないで栽培している。活動日には毎回農作物の収穫を行ない、自分たちで調理して食べる。

農園近くの「巨石の森公園」や、朝比奈川の川辺で楽しい時間を過ごしなが、食を通じた子育て、子ども・親子・地域の人たちとの交流をしている。

開催日は毎月第一日曜日。スタッフは現在6名(うち3名は参加者を兼ねたスタッフ)である。

《各回のプログラム》

10:00 [はじまり〜♪] [ゆっくりじっくり散歩♪]

畑観察、川遊び、草遊び、自然観察など

11:00 [畑からいただきます♪]野菜の収穫

11:30 [みんなでお料理♪]シンプルで素材の味を失わない調理法で、とれたてを頂きます。

12:00 [みんなですっきり♪]ランチタイム

12:50〔畑におかえし♪〕草取り、種まきなど、土や作物の感触を体感しながら、旬の野菜が育つお手伝いをします。農薬・化学肥料は使いません。

13:10〔今日のえいよう♪〕活動の振り返り

13:30〔さよならまたね♪〕お歌で終了

《参加者の募集方法》

市の広報、ブログ、子育て情報ホームページへの投稿、口コミなど機会をとらえて参加者の募集を行なっています。

(5)年間スケジュール

〈22年度予定〉

6月6日【夏です! 田んぼでドロンコ!】ジャガイモ・キュウリ・タマネギなど

7月4日【夏の恵みまるかじり! 田植えにチャレンジ】夏野菜いろいろ

8月1日【おもいっきり川遊び!】ニンジン・枝豆・スイカ・カボチャなど

9月5日【秋の恵みをいただく! ドングリ探検・稲刈り】サツマイモなど

10月3日【秋の七つの宝物さがし!】サツマイモ・大根・レタスなど

11月3日【落ち葉を集めて焼き芋!】大根・ヤーコン・ニンジンなど

12月5日【冬は土づくり! ライ麦を蒔こう!】大根・ミズナ・レタスなど

1月9日【お餅べったん! 保存食づくり】大根・白菜など

2月6日【寒さに負けないぞ! 木登りに挑戦】味噌づくりなど

3月6日【春をさがしに出かけよう! ヨモギ団子】野草の天ぷらなど

(6)参加者数・属性の実績及び推移

6月6日 14組 40人(女15 男5 子20)

7月4日 11組 30人(女10 男5 子15)

8月1日 10組 26人(女9 男4 子13)

9月5日 9組 27人(女9 男4 子14)

10月3日 8組 21人(女7 男3 子11)

11月3日 14組 40人(女15 男4 子21)

12月5日 11組 32人(女12 男6 子14)

1月9日 17組 49人(女16 男11 子22)

参加者は、圃場のある藤枝市他、静岡市内、島田市内、掛川市内、東京都内(静岡市内に実家がある)からの参加もある。

(7)経費

——年間概算経費 100万円

参加者からの参加費は年度会費 1家族3000円(10月からは半額)

各回参加費 親子(大1、子1) 1500円

追加1名ごと500円

課題及び対処方法(ポイント・工夫)等

●関係者(団体)との連携の経緯

・市民農園管理組合

市民農園内で活動を始めようとしていたときから、農園組合長に運営について相談を行なっている。

活動主催者が地元住民であり、教育ファームを積極的に行なうことで評価を得られ、次第に農園管理者と利用者以上のかかわりとなり、農作物栽培指導やネットワークづくりのアドバイスなどの支援を受けている。

・おかべ子どもネットワーク

母親クラブ、プレイパークグループ(公園遊びのグループ)、農業振興会などが加盟。

母親クラブの事業のなかで、未就園児親子対象の食農体験(「うちっちの畑」とほぼ同じ内容)を実施したのをきっかけに、情報交換をしている。

・MOA自然農法文化事業財団

元々、活動主催者に自然農法を進めたいという希望があり、情報を得ていた。

活動への参加者のなかに、自然農法への関心が高い人が数名いたので、無農薬・有機農法から、一步進んだこだわりの農法で進めることに決め、指導を仰ぐことにした。

●連携を進めるに当たっての課題と対処方法(ポイント・工夫)

田舎での活動なので性急に積極的な支援は求めず、実績を積み、時間をかけて、各団体との関係づくりを行なっている。

畑の利用では、草を伸ばしすぎない等、周囲への気配りも怠らないようにしている。

●ほ場での運営の課題と対処方法

・毎日は圃場に出られないため、草が伸び、作物の世話がなかなかできない。

→スタッフのマイ畑制度をつくった→この夏の暑さで、管理ができなかった。また、同時に管理方法を指導する人が必要でスタッフ個人だけでは管理ができず、滞ってしまう。

・自然農法(無肥料)を選択しているため、見栄えの良いものがとれず管理がしきれない。

→参加者との価値観の共有と、応援の呼びかけが必要。

・管理するための人件費の確保ができない。

・耕耘機がないので、市民農園の管理組合に有料で耕耘を依頼するが、大型機械で耕耘してしまうので、小回りがきかず希望どおりにならない。

・管理費も含めて採算がとれる活動にしていくため参加費を集めているが、採算をとるために参加費を増やすと参加しにくい活動になってしまい、参加費を下げれば参加者を増やさなければならず、それに伴い経費もかさみ、圃場も広く必要となって管理に手がかかるとともに事業の質も下がってしまう。また、行政が無料等でイベントを行なうとそちらに参加者が流れてしまい、参加者にも、こういった活動にお金がかかるという感覚がなくなってしまう。

→助成金等で、参加者が多くても高い質で活動できる環境整備や資材準備をしたい。

●安全管理

スタッフ向けリーダー研修のなかで、安全研修を実施。

主担当(伏見代表)は、メディックファーストエイド講習を受講。

*メディックファーストエイド (Medic First Aid)は、米国の一般市民向け応急手当教育プログラムの開発企業であり、同社が開発したシステムの名称でもある。

これまでの成果

- ・子どもの変化——当初は汚れるのを嫌がっていたりびくびくしていた子が、どろだらけになりのびのびと楽しく活動できるようになった。
- ・親から離れ、子ども同士で仲良く楽しめるようになった。
- ・親からは、自宅では見ることのできない子どもの様子を見て「うれしい。本当に連れてきて良かった」という声が一番大きい。
- ・親も子ども以上に楽しんで活動ができています。
- ・親子(家族)共同で作業することも楽しみを増している理由となっている。
- ・親子それぞれに家庭内とは違ったそれぞれの一面を見、成長を感じ、つながりが深まっているように感じられる。
- ・普段野菜を食べない子どもが、収穫調理した野菜は食べる事ができた。



親子揃って参加



野球大好き!

今後の構想、課題

- ・今後、より多くの家族に参加してもらえるよう圃場の拡大を行なっている。
- ・参加者の増加、応援スタッフの増加が課題。

どろんこ子育て応援団

みんなのコメント集

取組の
実践者

- ・参加者同士、誰の子どもでも声をかけ、面倒をみてくれて協力し合って活動してくれています。
- ・スタッフも楽しみながら運営を行なっています。活動のなかで、参加者とともに成長しあえる体験の場になっていると思います。

参加者

- ・太陽の下で、土をさわり、そら豆やタマネギの収穫をし、田植えの体験をし、楽しかったです。田んぼに入れなかった子ども、最後には楽しそうに遊んでいた顔はとってもいい笑顔でした。タマネギやそら豆の濃厚な味は、これぞ「野菜」っていう感じでした。
- ・目の前にある野菜を収穫し、洗い、料理して食すという体験ができてよかったです。普段はあまり野菜を食べない子どもが、まわりのお友だちの雰囲気野菜を食べてしまう姿に思わず笑ってしまいましたが、こういう経験が大切だなあと感じました。
- ・子どもがタマネギを生で食べ、さらに蒸したものを食べられびっくり!
- ・何よりも、子どもたちが田んぼの中で全身どろんこになって伸び伸びと遊んでいる姿を見れたことが、母として一番うれしかったことです。
- ・日常のもやもやも自然の中で自然体で居れて、子どもたちのにぎやかな声、泣く声、全てが温かい心で、目で見ることができて、やっぱりこの活動は心の豊かさも与えてくれる場所だなあ〜とつくづく感じることができました。



参加者同士のふれあいも生まれる